

2018（平成30）年度

学習計画 （シラバス）

第2学年普通科教養系



科目一覽 (単位数)

- 現代文 B (2 単位)
- 古典 B (2 単位)
- 地理 A (3 単位)
- 現代社会 (2 単位)
- 数学Ⅱ B (5 単位)
- 生物基礎 (2 単位)
- 地学基礎 (2 単位)
- 体育 (2 単位)
- 保健 (1 単位)
- コミュニケーション英語Ⅱ (5 単位)
- 家庭総合 (2 単位)

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	現代文B	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	数研出版『現代文B』	副教材	第一学習社『パーフェクト常用漢字』 大修館『ビジュアルカラー国語便覧』		
教科目標	近代以降のさまざまな文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
授業内容 進め方	授業は「小説」「評論」を中心に、論理的に読むことを目標とします。そのためには、 ①基礎的な国語力(漢字・語彙・用法等の知識)を高める。 ②文章の要旨をつかむ技術(文の構造を把握する力)を身につける。 ③文章を正確に読んだ上で自分の感受性や思考力、表現力を高める。 ということに重点をおいて授業を行います。				
授業の留意点	さまざまな文章に触れることで読解力を養っていきます。そのためには、自分で考え、的確に表現しようとする努力が必要です。黒板に書かれたことをノートに写すだけではなく、問題についてきちんと考え、要点を整理し、自分の考えをまとめる習慣を定着させましょう。				
学習方法 (アドバイス)	日頃から書籍や新聞、雑誌など、さまざまな分野の文章を読んでみてください。積極的に「読む」ことで、内容を素早く的確に読み取る力が定着するはずです。また、知らなかった言葉がでてきたら意味を調べるなど、語彙を増やす努力をしてください。 日常会話においても言葉を正しく使うことができるよう、意識してください。				
課題・補習	必要に応じて行います。適宜行う「漢字テスト」に向けた学習は各自で計画的に進めてください。				
試験について	試験は定期試験年4回実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・授業への取り組み ・課題・提出物の状況 ・ノート、プリントの内容			
	②話す・聞く能力	・授業への取り組み ・発表、スピーチ			
	③書く能力	・授業への取り組み(作文、レポート等) ・課題、提出物の状況 ・ノート、プリントの内容 ・定期試験			
	④読む能力	・授業への取り組み ・課題、提出物の状況 ・ノート、プリントの内容 ・定期試験			
	⑤知識・理解	・授業への取り組み ・課題、提出物の状況 ・ノート、プリントの内容 ・定期試験・小テスト・漢字テスト			
備考	三色のボールペンを用意してください。色は赤・青・緑推奨ですが、見づらければ自分が見やすい色で構いません。				

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	古典B	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	精選古典B(三省堂)	副教材	読解をたいせつにする 体系古典文法 八訂版(数研出版) 新明説漢文(尚文出版) ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)		
教科目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。				
授業内容 進め方	①音読により文章のリズムをつかみ、大意を把握する。 ②語句の意味、文法事項等を確認し、現代語訳をする。 ③そこに表わされた細やかな感性や自然観・人生観など日本文化の根幹をなすものについて理解を深める。 ④自分の生活や考え方と比較することにより、いかに生きるかを深く考える端緒とする。				
授業の留意点	授業においては、まず音読を大切にしてください。声に出して読むことで、古文・漢文のリズムをつかむことができ、それが内容把握に役立つはず。語句や用法の説明、現代語訳については、説明を待つだけではなく自分なりの考えをまとめた上で授業に臨んで下さい。黒板に書いてある事柄をただ書き写すだけでは読解力は定着しません。文章をじっくりと読み、問題について自分で考え、理解するように努めて下さい。				
学習方法 (アドバイス)	予習として、①本文の書き写し ②重要語句の意味調べ ③助動詞の確認 を行った上で授業に臨んでください。古典文法や漢文の訓読等に不安がある場合は、「体系古典文法」や「新明説漢文」の演習問題に取り組んでみて下さい。				
課題・補習	適宜行います。また、長期休業中に成績不振の者に対して補習を行います。				
試験について	定期試験の他に必要に応じて小テスト、確認テスト等を実施する予定です。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・授業への取り組み ・課題・提出物の状況 ・ノート・プリントの内容			
	②話す・聞く能力				
	③書く能力				
	④読む能力	・授業への取り組み ・課題・提出物の状況 ・ノート・プリントの内容 ・定期試験			
	⑤知識・理解	・授業への取り組み ・課題・提出物の状況 ・ノート・プリントの内容 ・定期試験			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	地理A	単位数	3 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	「新地理A」(帝国書院) 「新詳高等地図」(帝国書院)	副教材		「新地理Aノート」(帝国書院) 「世界の諸地域NOW2018」 (帝国書院)	
教科目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
授業内容 進め方	(1)教科書を中心に現代世界の地理的な諸課題について、地図の読図などの作業的、体験的な学習を取り入れ、地理的技能が身に付くよう展開していきます。 (2)授業中に出来るだけ多くの地図・資料を用いて学習します。				
授業の留意点	(1)現代世界の地理的事象について、事実関係を常に疑問を持ちながら学びましょう。 (2)資料を調べて、客観的な事実を探究する力や、統計や地図などにわかりやすくまとめる表現力を身につけましょう。 (3)基本的な「知識・理解」については、その背景などを説明できるようにし、確実に身につけましょう。				
学習方法 (アドバイス)	教科書の内容をしっかりと理解するために、「新地理Aノート」を十分に活用してください。授業での小単元ごとに行う復習プリントと小テストで基本的事項の確実な定着をはかってください。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年4回実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしているか。 (授業態度、発言・発表内容、提出物)			
	②思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的、多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえて、公正に判断しているか。 (授業態度、発言・発表内容、提出物、試験)			
	③技能	地図や統計資料、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することができるか。 (課題取り組み、提出物、試験)			
	④知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追究の方法を理解し、その知識を身につけているか。 (小テスト、試験)			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	現代社会	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	「最新 現代社会 新訂版」(実教出版)	副教材		「最新現代社会新訂版演習ノート」(実教出版)	
教科目標	(1)自分を知り、自分を表現できるようになること。 (2)学ぶことの意義を知ること。 (3)広い視野に立って現代社会を考察し、その問題点を見つけられるようになること。 (4)現代の社会において、自分の役割について考え、働くことの意義を知ること。				
授業内容 進め方	(1)教科書の内容を中心に事項を学び、現代社会の基本的理解を図ります。 (2)授業中に出来るだけ多くの問題を取り上げ具体的な事象として学習します。 (3)適宜小テストなどを実施し、理解度を確認しながら進めていきます。				
授業の留意点	(1)客観的な資料と関連させて諸課題をとらえ、公正で客観的な視点・思考方法を身につけましょう。 (2)様々な立場を理解し、歴史的に現代をとらえ、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 (3)考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を身に付けましょう。				
学習方法 (アドバイス)	教科書とノートを基本として、単語を覚えることはもちろんですが、日常的に社会の出来事について関心を持ち、新聞やニュースなどをみるようにしましょう。また、資料集を積極的に活用し多くの情報に触れる中で、知識を増やし理解を深めていきましょう。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年4回実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・意欲的に課題を追求する態度や客観的に考察しようとする態度を身につけているか。 ・グローバル化する現代社会の中の日本の政治や文化に関心を深め、社会の中の自分の生き方や在り方と関連付けて考えられているか。 ・日本人として民主政治について主体的に考える態度を身につけているか。 ※学習活動への参加の仕方や態度・プリントへの取り組み・ノート			
	②思考・判断・表現	・自己理解の方法や現代社会に関する諸事象に関する考察を深め、自己の課題として考えることができるか。 ・社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ政治について公正に判断しているか。 ※定期試験・小テスト・学習活動への参加の仕方や態度・プリントへの取り組み			
	③技能	・諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に関する情報を主体的に選択し活用しているか ・学習の中で、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか ※定期試験・プリントへの取り組み			
	④知識・理解	・自己理解や社会の在り方について、理解する方法を知り、様々な角度から考察する基礎が出来ているか。 ・現代社会で地球規模で生きている様々な問題を理解しているか。 ・基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解しているか。 ・政治についての基本的な見方や考え方を身に付けているか 定期試験・プリントへの取り組み			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	数学Ⅱ・B	単位数	5 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	「数学Ⅱ」(東京書籍) 「数学B」(東京書籍)	副教材	「Standard Buddy STAGE 数学Ⅱ+B」(東京書籍) 「Standard Buddy STAGE 数学Ⅱ+B 解答編」(東京書籍)		
教科目標	方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、数列、ベクトルの考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。				
授業内容 進め方	授業の進め方は、教科書の内容を基本とし、基礎の定着をはかる。その定着具合から判断して、副教材を用いた問題演習を積極的に行い、応用力を身につける。平行履修とはせず、数学Ⅱと数学Bの内容を考慮しながら行う。				
授業の留意点	授業では教科書の内容を中心に行うが、その際「定義」、「定理(公式)」を理解するように心がけ、基本的な例題の解法は疑問点がなくなるまでじっくりと考えてもらいたい。疑問点がある場合には、どこから分からなくなったのかを明確にして質問すること。それが自分自身の弱点を克服する鍵となる。				
学習方法 (アドバイス)	数学を勉強するにあたっては問題の演習に時間を割くことが重要である。授業に臨むにあたり、できれば予習をしておくことが望ましいが、それよりも復習に時間を割くことが大切である。授業で行った内容の問題演習を、各自副教材を利用するなどして毎日必ず復習すること。 問題演習の中で、基本的な計算問題もミスなくできるよう必ず解くこと。計算力を身につけることが、数学の学力を向上させる最良の手である。				
課題・補習	教科書の補充問題、章末問題、副教材の問題で授業の中で消化しきれなかった問題を課題とする。場合によってはプリント等で課題を補充することもありえる。平常講習、長期休業中の講習では、授業の発展的な内容を扱う。				
試験について	試験は4回の定期試験以外にも4回行い、合計8回実施する。その全ての試験を同等に扱い評価の対象とする。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	各章における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしているか。 ・学習活動への取り組み ・課題や提出物の状況(ノート、プリント、レポート等)			
	②思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 ・試験 ・提出レポートの内容 ・提出ノートの内容			
	③技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト			
	④知識・理解	各章の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	生物基礎	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	「改訂版 生物基礎」(数研出版)	副教材		「スタディアップノート生物基礎」(数研出版) 「フォトサイエンス生物図録」(数研出版)	
教科目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。また、観察、実験などを通して、生物学的に探求する態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
授業内容 進め方	教科書で重要項目を確認し、観察、実験、資料の活用、意見交換などによりイメージを広げ理解を深める。				
授業の留意点	・授業が始まるまでに、教科書、ノート、資料集を用意する。 ・板書は自分なりに分かりやすく工夫してノートにまとめ、復習に活用すること。 ・ノートや課題などの提出物は必ず期日を守り提出すること。 ・発問に対して積極的に考え、発表するように心がける。不明な点は時間内に解決すること。				
学習方法 (アドバイス)	用語を丸暗記するのではなく、なぜそうなるのかを常に考える。また、実際に目で見ることができないものは資料集などでイメージを広げ理解を深める。				
課題・補習	必要に応じて行う。				
試験について	定期試験は年間4回行う。期間内に授業で扱ったすべてを試験範囲とする。小テストは随時行う。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への参加態度 ・ノート、課題等の内容と提出状況			
	②思考・判断・表現	・発言の内容 ・課題(実験レポートなど)の内容 ・定期試験の解答内容			
	③技能	・実験、観察への取り組み ・課題(実験レポートなど)の内容 ・定期試験の解答内容			
	④知識・理解	・定期試験、小テストの解答内容 ・課題の内容 ・発言の内容			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	地学基礎	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	地学基礎(数研出版)	副教材	リードLightノート地学基礎(数研出版)		
教科目標	近年の災害によって注目されている地震や気象を中心に、それらの現象を理解するための基本的な概念や原理・法則を学ぶ。また学習活動や課題学習に取り組み、得た知識を実生活に応用する能力を身につけ、自然に対する探究心を育むことを目標とする。				
授業内容 進め方	教科書に沿って授業を行い、学んでいる分野の理解を深めるため、現在われわれが直面している課題を把握するために、必要に応じて学習活動や視聴覚教材を用いて授業を行う。また教科書の練習問題、副教材の問題演習を解き、自然現象の科学的な見方や考え方、計算能力を身につけていく。				
授業の留意点	授業中に学んだ語句・考え方は、復習を中心にして完全に理解しておくこと。その上で問題演習を進んで行き、自然現象を科学的に考える力、計算力の向上に努めること。また一般的にも注目されている内容であるので、地震や天気といった自然現象に関する話題に積極的に触れることを心がけること(授業でも話題には触れる)。				
学習方法 (アドバイス)	授業内容に対する自分なりの解釈を常に持ちながら授業に臨んでほしい。考えを持ち探求していくことが、自然現象を科学的に理解する力を身につける助けになる。また一度つまずくとその後の内容の理解が難しくなるので、分からない箇所が出てきた場合にはその都度質問し、復習して理解するという習慣を身につけることも大切である。				
課題・補習	適宜教科書の練習問題や副教材の問題を課題として指示する。発展的な内容についてはプリントでの課題学習を行う。また、成績不振の者に対して補習を行う場合もある。				
試験について	定期試験を4回行う他、進度に応じて授業の中で確認テストを行う。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・授業での態度、発言 ・課題・提出物の取り組み、提出状況			
	②話す・聞く能力	・実験への取り組み ・科学、数学的な思考			
	③書く能力	・工夫したノートの取り方 ・実験のまとめ、考察の表現能力			
	④読む能力	・説明文、問題文の状況把握			
	⑤知識・理解	・課題・提出物の取り組み、提出状況 ・定期試験			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	体育	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	「ステップアップ高校スポーツ」 「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店	副教材		指定ジャージ、指定靴 指定Tシャツ、柔道着(男子)	
教科目標	運動を意欲的に実践し、調和の取れた心身の発達を目指す。また、運動を通して公正・協力・責任などの態度を学び、生涯を通じて計画に基づいて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。				
授業内容 進め方	各種運動を実施しながら学んでいく。				
授業の留意点	① 指定ジャージの管理 ② 時間を守る ③ 安全性への配慮 ④ 指示を聞く姿勢と態度 ⑤ 用具の準備・片付けと協力 ⑥ 他の生徒との協調 ⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること				
学習方法 (アドバイス)	日頃から心身の健康や体力に関心を持たせ、各種目の技能向上を目指す。また、生涯にわたり体育的活動に親しむことが出来るように、興味を持って取り組むことや、他者とのコミュニケーションを取りながら協力し合って授業に望むことが出来るようにする。さらに、事故や怪我等、安全面への配慮も確認する。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	種目毎、授業の進度に応じて適宜実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	服装・身だしなみ・協調性等			
	②思考・判断・表現	毎時間の取り組みを観察する			
	③技能	種目毎の実技試験による評価			
	④知識・理解	授業内での観察や筆記テスト等			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	保健	単位数	1 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店	副教材		「現代高等保健体育ノート改訂版」 大修館書店	
教科目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
授業内容 進め方	教科書・ノート、必要に応じてプリントを使いながら学習していきます。				
授業の留意点	①個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとすること。 ②個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えるよう学習に取り組むこと。 ③健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けること。				
学習方法 (アドバイス)	試験が年に2回なので、毎時間の授業で教科書の内容やノートの問題をしっかりと理解し、試験に備えておく必要がある。また、日頃から健康問題や保健・医療サービス等に関心を持つことも重要である。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	試験は前期期末試験と学年末試験の2回実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	授業中の態度や発言など			
	②思考・判断・表現	課題解決学習への取り組み			
	③技能	発表やレポートの内容、定期試験			
	④知識・理解	定期試験、小テストなど			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	5 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	Compass English CommunicationⅡ Revised (大修館)	副教材		transfer 英語総合問題演習 コースB Listening Laboratory Standard α・β システム英単語 Basic	
教科目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を身につける。 CAN-DO-LISTに基づく具体的言語活動は次の通り。 (1) 日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べる ことができる。 (2) 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 (3) 日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 (4) 簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる				
授業内容 進め方	教科書・プリント・ICT機器を用いて音読、英問英答、プレゼンテーションによる内容把握など、4技能を統合的に伸ばすアクティブラーニング型の授業を行う。				
授業の留意点	・言語活動に積極的に参加して学習すること。 ・音声的な特徴(アクセント・イントネーション)や日本語との違いに注意しながら発音すること。 ・まとまりのある文章を音読・暗唱して英語の文章の流れに慣れること。 ・4技能(聞く・読む・話す・書く)をバランス良く学習すること。				
学習方法 (アドバイス)	・授業中の言語活動に積極的に参加すること。 ・教科書やプリントの復習、ユメタンの予習、復習を心がけること。 ・音読練習をすること。				
課題・補習	・課題としてユメタン小テストに向けた予習を課す。 ・定期的にtransferの提出を求める。				
試験について	定期試験を年4回実施する。また、英単語コンクールを年2回実施する。				
評価の 観点・方法	評価の観点		評価方法		
	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度		積極的な態度で言語活動に参加し、相手とのコミュニケーションを図ろうと努力している。授業で学んだ表現を積極的に活用して話したり書いたりしている。 ・学習活動への参加、取り組み態度		
	②外国語表現の能力		英語で話し合ったり意見をまとめたりすることができる。 情報や考えなどをまとまりのある英語で書くことができる。 聞き手に伝わるように英語で音読したり暗唱したりすることができる。 ・定期試験、学習活動への参加や取り組み態度、提出物(プリント、ワークシート)、プレゼンテーション		
	③外国語理解の能力		英語を聞いて理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 ジャンルや目的に応じて読み方を工夫しながら、概要や要点をとらえることができる。 ・定期試験、学習活動への参加や取り組み態度		
	⑤言語や文化についての知識・理解		単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。 英語を使う上で必要な文化的背景について理解している。 ・定期試験、小テスト		
備考	パフォーマンステストにおける評価基準はテスト実施時に提示する。				

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	家庭総合	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 普通科教養系
教科書	東京書籍 家庭総合 自立・共生・創造	副教材		実教出版 生活学Navi 資料＋成分表 2018	
教科目標	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
授業内容 進め方	・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を学びます。 ・自分自身や現在の生活を深く見つめ、自立を目指し将来を考えることが出来るように学習を進めます。 ・多様な学習形態を取り入れ、生活や学習の中から見つけた課題の解決方法を考え、実践していきます。				
授業の留意点	・家庭科の各分野や他教科での学習と関連づけて考えるようにしましょう。 ・自らの経験や体験、他の人の意見を大切にし、自分の考えを持つよう心がけましょう。 ・ワークシートに授業の中で大切だと思うことや自らの考えを書き込むなどし、自分なりに工夫や整理をしましょう。 ・ワークシート、レポート、作品等の提出物は期日を守って必ず提出しましょう。				
学習方法 (アドバイス)	家庭総合を学ぶ上で最も大切なことは、単なる知識や技術の習得のみではなく、学習した内容を日常生活に生かすことです。学校での学習を家庭生活で実践し、将来に生かせるようにしてください。				
課題・補習					
試験について	定期試験は前期中間、前期期末、後期中間、学年末(計4回)の実施予定です。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、意欲的に学習し、生活を向上しようとする実践的な態度が身についたか。 ※授業態度・ワークシート等			
	②思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて課題を見つけ、課題解決のために考え工夫する力が身についたか。また、自分の考えなどを表現する力が身についたか。 ※定期試験・ワークシート・発表・レポート等			
	③技能	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて、自立のために必要な基礎的技術が身についたか。 ※実習・ワークシート・作品・レポート等			
	④知識・理解	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて基礎的・基本的な知識が身についたか。 ※定期試験・ワークシート等			
備考					